

Club Je Pense

2018年8月講義

分析哲学の世界観

分析哲学の世界観

一般的な人々の認識は
まず世界があってそれを言葉が写し取る
と考える

分析哲学の世界観

しかしその考え方のせいで
世界を捻じ曲げて見てしまい
本来抱える必要のない問題を抱えることになる

分析哲学の世界観

例えば

「幸せ」という状態や感覚が元々存在していると
多くの人は何の疑いもなく信じている

分析哲学の世界観

だから

幸せになろうと努力をしたり
幸せじゃないと嘆いたりする

分析哲学の世界観

でも

そもそも「幸せ」とは何でしょう？

分析哲学の世界観

そんなものは本来この世界には存在しません

分析哲学の世界観

まず世界があってそれを言葉が写し取っている
のではなく

まず言葉があってそこから世界が開かれていく

という考え方が世界の正しい見方です

分析哲学の世界観

つまり

誰かが勝手に「幸せ」という言葉を創り
それによって「幸せ」という概念がこの世界に生まれ
人は「幸せ」という言葉に人生を翻弄されている

分析哲学の世界観

この世界観が腑に落ちることで
誰かが創った概念に振り回されることがなくなり
多くの人生の悩みが消失します

分析哲学の世界観

これは資本主義社会という
お金が大きな力を持つ世界の仕組みと
密接に関係しています

分析哲学の世界観

人は生きるために
必要最低限の水と食料や住居や衣服があれば
本来はそれだけで良いわけです

分析哲学の世界観

しかし

必要最低限の衣食住を提供しているだけでは
お金をたくさん儲けることはできません

分析哲学の世界観

そこで

実態のないものに名前をつけて
新しい概念や価値をこの世界に創り出し
それをお金儲けの道具に使っています

分析哲学の世界観

例えばブランド物

ものを持ち運ぶ目的だけなら
普通のバッグで十分役目を果たせます

分析哲学の世界観

そこに

ブランド物を持つ＝セレブ

ブランド物を持つ＝勝ち組

ブランド物を持つ＝お洒落

というように言葉で価値観を捏造して
過剰な消費を生み出すように仕掛けている

分析哲学の世界観

もちろんブランド物にはそれぞれ
デザイナーの世界観が反映されていますが
その世界観に共感してそのブランド物を買う人は
実際どれくらいいると思いますか？

分析哲学の世界観

デザイナーの世界観よりも
そのブランド物を持つことによるイメージを
多く的人是は買っているわけです

分析哲学の世界観

もし

ヴィトンの財布がスーパーで100円で売っていて
いわゆる低所得者やホームレスがみんな使っていたら
それでもヴィトンの財布を持ちたいですか？

分析哲学の世界観

それでヴィトンに魅力を感じなくなるなら
それはヴィトンのデザイナーの世界観ではなく
ヴィトンを持つことによるイメージに支配されている証拠

分析哲学の世界観

このようにして

本来なら価値のないものに言葉で価値を捏造して
お金をたくさん儲ける人が力を持つのが
資本主義社会という構造です

分析哲学の世界観

明示的意味（デノテーション）

と

潜在的意味（コノテーション）

の逆転が逆転しているのが現代社会

分析哲学の世界観

他にも指し示す実態がない
「悩み」という言葉を
当たり前のように受け入れてませんか？

分析哲学の世界観

ただ解決した事があるだけなのに
「悩み」という言葉にマイナスな感情を貼り付け
「悩み＝解決しなくてはいけない」
とお金儲けのチャンスにつなげている

分析哲学の世界観

他にも行動を制限する

「恥」「失敗」「本気」「本当」「自分らしさ」

なども

この世界に指し示す事実はありません

分析哲学の世界観

まずは

自分を動かしている言葉を全て洗い出して
自分なりに再定義しましょう

分析哲学の世界観

具体的に言うと

自分専用の辞書を自分で作成して

自分のステージに合わせて随時改訂してください

分析哲学の世界観

ただし

自分専用の言葉は「私的言語」といい
基本的に自分以外を動かすことはできません

分析哲学の世界観

もし

私的言語で人を動かすことができれば
それはリーダーの証です

分析哲学の世界観

また

私達は言葉という道具を使って
コミュニケーションを取っていますが
私達は根本的には理解し合うことができない

分析哲学の世界観

例えば

「本気」という言葉を使った場合
「あなたの本気」と「相手の本気」が
同じ事を指し示していると確かめることは
不可能です

分析哲学の世界観

「わかりました」という言葉も
どの程度の理解した時に使うかも
人によって違うため
私達は相手を理解していると
錯覚しているに過ぎない

分析哲学の世界観

つまり

「人はわかりあえる」という前提ではなく
「人はわかりあえない」という前提の方が
コミュニケーションは上手くいく

分析哲学の世界観

「わかりあえる」が前提だから
相手にわかってもらえないと不満を持ち
相手を理解できないと悩んでしまう

分析哲学の世界観

「わかりあえない」が前提なら
少しでも誤解をなくそうと努力するし
理解しあえなくても落胆しない

分析哲学の世界観

このような考え方を
誰にでも表明する必要はないが
自分の中で持っている
余計な問題を抱えなくて済みます

ワーク

思考実験と言語化

思考実験とは…

科学的な原則に反しない条件に基づき
頭の中で思考して行う実験

思考実験 1

アキレスと亀

アキレスと亀がいて、2人は徒競走をすることになった。

しかしアキレスの方が足が速いのは明らかなので亀がハンディキャップをもらって、いくらか進んだ地点（地点Aとする）からスタートすることとなった。

スタート後、アキレスが地点Aに達した時には、亀はアキレスがそこに達するまでの時間分だけ先に進んでいる（地点B）。

アキレスが今度は地点Bに達したときには、亀はまたその時間分だけ先へ進む（地点C）。

同様にアキレスが地点Cの時には、亀はさらにその先にいることになる。

この考えはいくらでも続けることができるので、いつまでたってもアキレスは亀に追いつけない。

普通に考えればアキレスはすぐに亀に追いつくはずなのにこの説明を聞くといつまでも亀に追いつけないことに納得できてしまいます。

なぜ、この説明が説得力を持つのかを論理的に説明してください。

思考実験 2

双子のパラドックス

特殊相対性理論とは、光の速度に近づくほど時間の進みが遅くなるという理論。

双子の兄弟がいて、弟は地球に残り、兄は光速に近い速度で飛ぶことができるロケットに乗って、宇宙の遠くまで旅行したのちに地球に戻ってくるものとする。

このとき、弟から見れば兄の方が動いているため、特殊相対性理論が示すように兄の時間が遅れるはずである。

すなわち、ロケットが地球に戻ってきたときは、兄の方が弟よりも加齢が進んでいない。

一方、運動が相対的であると考えれば、兄から見れば弟の方が動いているため、特殊相対性理論が示すように弟の時間が遅れるはずである。

すなわち、ロケットが地球に戻ってきたときは、弟の方が兄よりも加齢が進んでいない。

これは前の結果と逆になっており、パラドックスである。

この「双子のパラドックス」を解決してください。